

景気動向調査 令和5年9月分（令和5年9月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

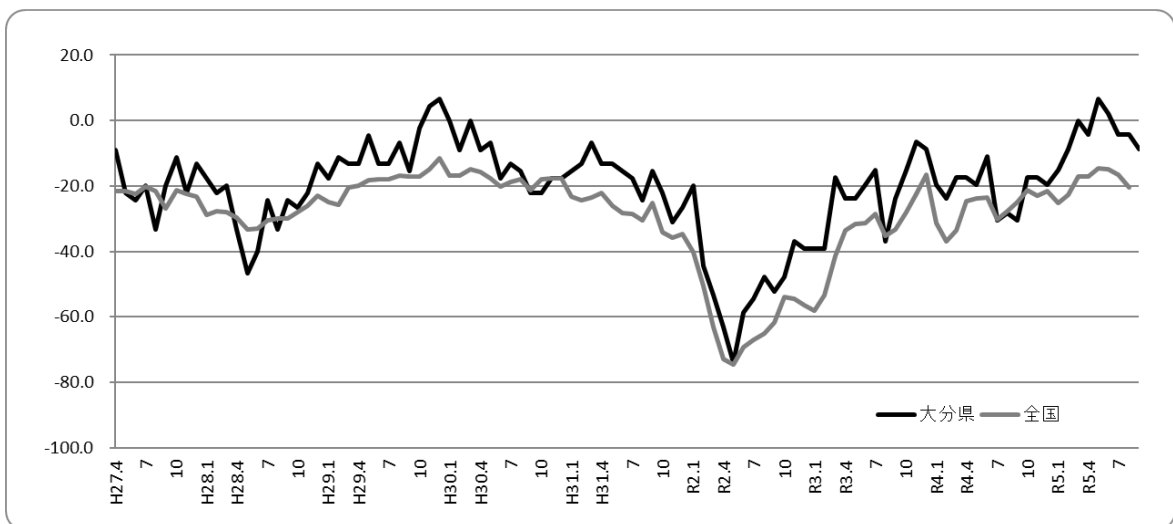
【9月の景況】

9月のDIは、9指標のうち、3指標が好転、5指標が悪化、1指標が変わらずという結果となった。

主要3指標は、悪化もしくは変わらず。先月と比較して、売上高DIは±0で変わらず、収益状況DIが4ポイント悪化、景況感DIが4.4ポイント悪化となっている。

なお、原油や原材料の価格高騰による価格転嫁を受けて、販売価格DIは続伸しており、+43ポイントと過去10年で最も高い水準にある。

調査員からは、仕入価格上昇や最低賃金上昇、インボイス対応などの要因から、廃業を考える事業者がいるといった声も寄せられた。



景況感 DI 値

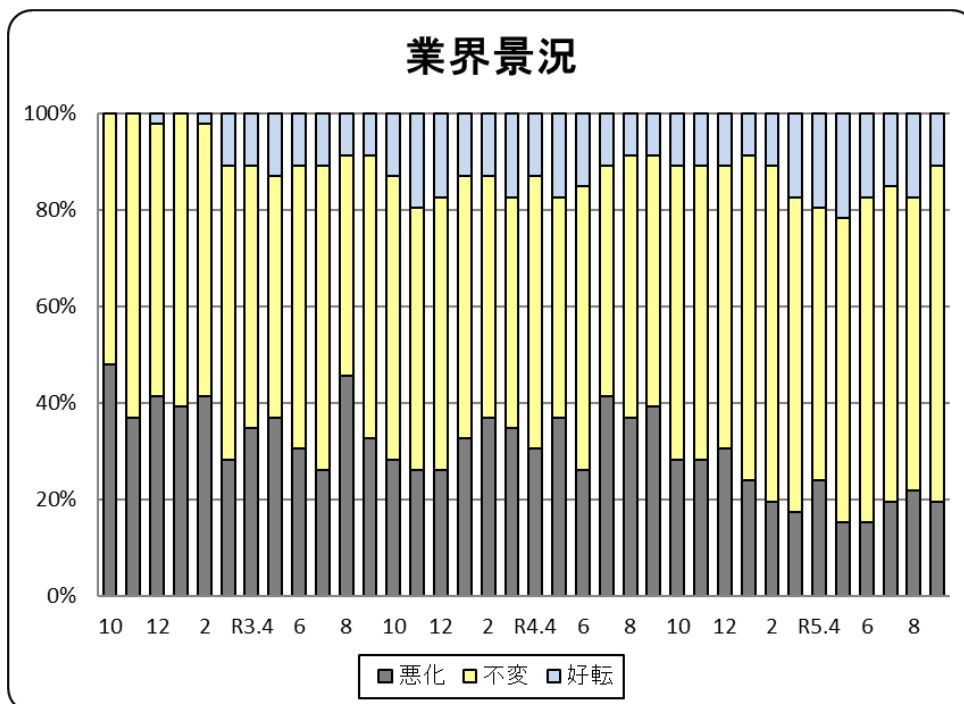


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

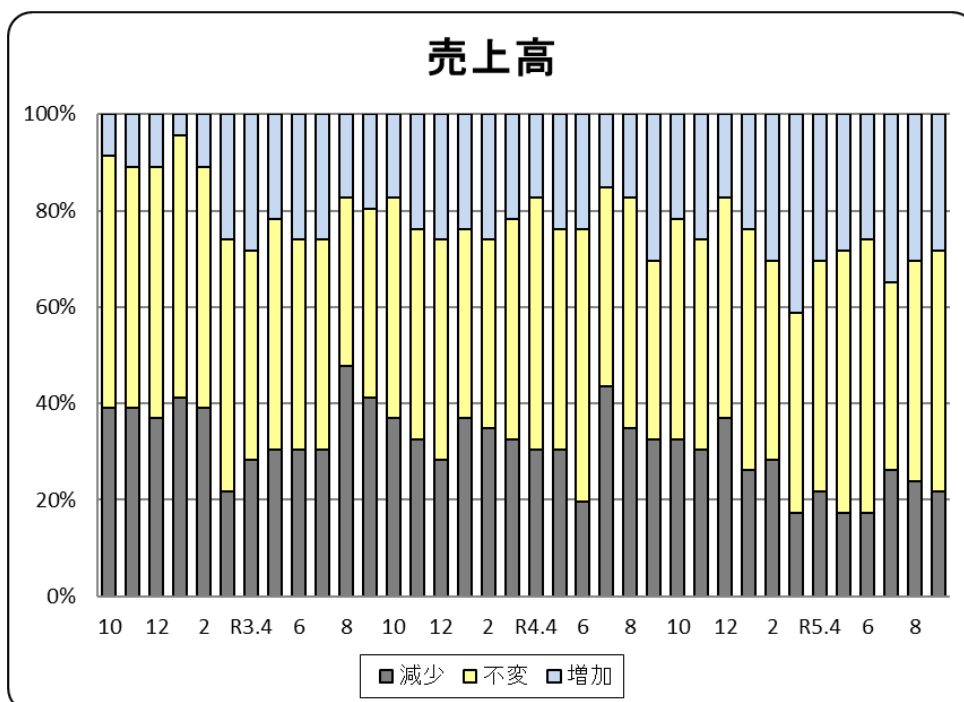
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、景況感 DI は、 $\Delta 8.7$ ポイントで前月から4.4ポイント悪化。売上高DI値は、+7ポイントで前月と変わらず。収益状況DI値は、 $\Delta 13$ ポイントで前月から4ポイント悪化。雇用人員DI値は、 $\Delta 11$ ポイントで前月より4ポイント減少という結果となった。

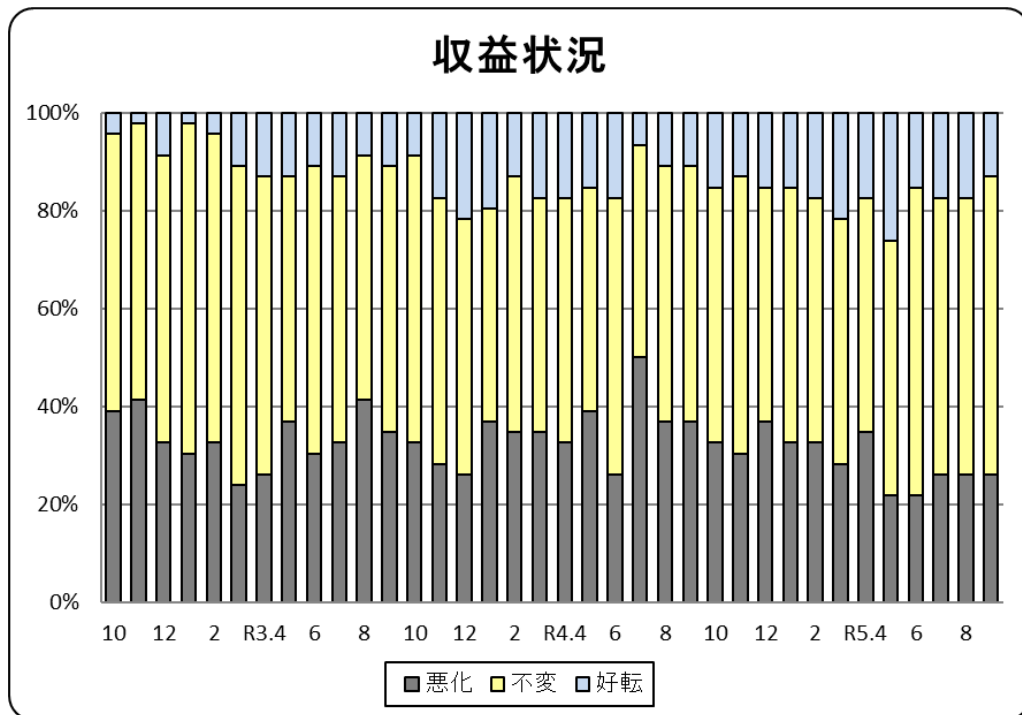
景況の動向は、好転は5組合、悪化は9組合であった。DI値は $\Delta 8.7$ ポイントで前月から4.4ポイント悪化。割合で見ると、好転11%、不変70%、悪化19%であった。なお、製造業の景況感DI値は $\Delta 12$ ポイント、非製造業の景況感DI値は $\Delta 7$ ポイントであった。



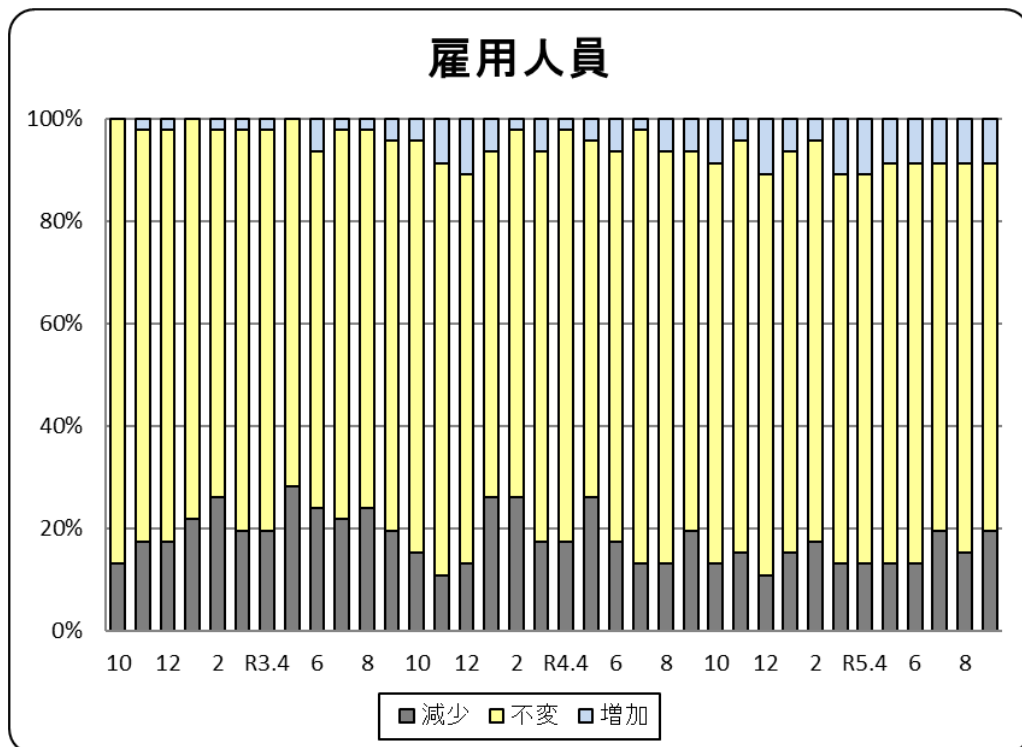
売上高の動向は、増加は13組合、減少は10組合であり、DI値は+7ポイントで前月から変わらず。割合で見ると、増加28%、不変50%、減少22%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は6組合、悪化と回答した組合は12組合であった。DI値は△13ポイントで前月から4ポイント悪化。割合で見ると、好転13%、不変61%、悪化26%であった。



雇用人員の動向は、増加は4組合、減少は9組合であった。DI値は△11ポイントと先月より4ポイント減少。割合で見ると、増加9%、不変72%、減少19%であった。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数－減少・悪化組合数)／調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

